

原発問題講演会

どうなっている汚染水の問題 どうしたらいいのが

講師 児玉一八氏

東京電力福島第1原発で、汚染水が増え続け、廃炉作業の大きな「壁」になっています。

安倍首相は昨年9月、東京オリンピックの招致演説で「汚染水は完全にコントロールされている」と胸を張りましたが、とんでもありません。国際原子力機関(IAEA)も「最大の課題」と指摘する事態で、事故は収束していません。

原子炉建屋に流れ込む前の地下水の海への放出も迫っています。

福島第1原発の1~3号機では、溶けた燃料を冷却するために原子炉に水を注入し続けています。その水が燃料に触れた後、放射性物質に汚染され原子炉建屋地下などに溜まっているのです。

この水は循環させて再び冷却に使用するので、これだけで汚染水は増えませんが、問題は建屋地下に1日約400トンの地下水が流入しており、このため汚染水が増え続けているのです。

汚染水対策が重要なのは、廃炉作業の鍵を握っているからです。溶融燃料の状態を把握するには、原子炉建屋内に溜まる汚染水を取り除かなければなりません。

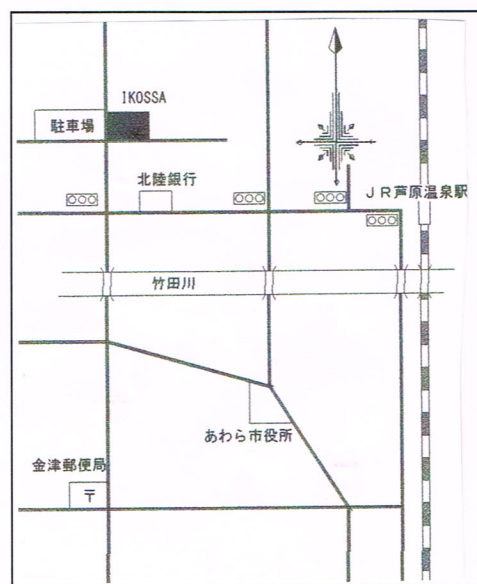
現状はどうなっているのか、これからどうしたらいいのか、語っていただきます。

ぜひ、お誘い合わせの上、ご参加ください。



児玉一八氏略歴

1960年武生市(現・越前市)生まれ。金沢大学理学部卒業。医学博士。現在、日本科学者会議原子力問題研究委員。核・エネルギー問題情報センター理事。原発問題住民運動石川県連絡センター事務局長。



●2月8日(土)pm2:00~

●IKOSSA(金津図書館)3階ホール 参加費 500円

あわら市春宮2-14-1 TEL73-1065

主催 原発を考えるあわら市民の会 連絡先；中野 090 - 3292 - 9029